

情報かわら版

9



今月の表紙：星峠の棚田（十日町市）

特集

新潟県拠点「みどり戦略取組グループ」連載第5回

- ・ 北陸ブロック「みどり戦略学生チャレンジ交流会」を開催
- ・ 有機農産物生産者紹介 ～ 鈴木農園（長岡市）～

トピックス

- 棚田と地域に寄り添う女子サッカーチーム ～FC越後妻有(十日町市)～
- ケージ飼いから放し飼いへ ～(株) オークリッチ(村上市)～
- 需要に応じた米生産の部屋
～ 主食用米等の需給見通し(令和8年9月)～

お知らせ

- 届出・補助金等のオンライン申請システム
「eMAFF申請2.0」へリニューアル
- 令和9年度農林水産予算概算要求の概要

電子版はこちら





棚田と地域に寄り添う女子サッカーチーム

FC 越後妻有

9月2日、十日町市の中山間地域で活動する女子サッカーチーム「FC越後妻有(えちごつまり)」取材しました。選手たちはサッカーに打ち込む一方で、棚田の保全や農業、地域イベントの運営にも携わり、地域に新たな活力を生み出しています。今回は、地域住民とともに取り組む棚田保全や、郷土料理「雪見御膳」を通じた食文化の継承など、農業とサッカーが結び付いた地域づくりの魅力に迫りました。

地域の課題から生まれたFC越後妻有

FC越後妻有は、2015年に「大地の芸術祭」から生まれた女子サッカーチームです。

その設立には、農業の担い手不足と、スポーツ選手のセカンドキャリアという二つの地域・社会課題の解決を目指す思いがありました。選手たちはNPO法人越後妻有里山協働機構の職員として、芸術祭の運営や棚田保全に携わりながら競技を続けています。「おじいちゃんおばあちゃんの手顔を創り出す」をコンセプトに、地域とともに歩む活動を展開しています。

▼ まつだい「農舞台」フィールドミュージアムから見える棚田



作品名「棚田」
作家名：イリヤ&エミリア・カバコフ



▲ 元井GM兼監督（写真左）と大平選手（写真右）

今年で加入6年目となる元井GM兼監督（千葉県松戸市出身）は、「地域の方々と一緒に汗を流し、暮らしの中で関わることを大切にしています。助け合いの精神など、都会にはない豊かさがこの地域にはある。地域の営みに寄り添い、既成の価値観にとらわれないで活動することが大切です。選手も地域の皆さんとの関わりを通じて成長していると感じています」と語っていました。

今年で加入5年目となる大平選手（新潟市出身）は、「サッカーだけでなく、農業や大地の芸術祭など幅広い活動に挑戦できることに魅力を感じて加入しました。地域の皆さんが温かく迎えてくださり、野菜を届けてくれたり、草取りをしていると「頑張っているね」と声を掛けてくれることもあります。そうした日々の交流が大きな励みになっています」と語っていました。



▲ 奴奈川キャンパス グラウンドにて

星峠の棚田を守る取組

十日町市松代(まつだい)は、「星峠の棚田」をはじめとする日本有数の棚田地域です。FC越後妻有は、棚田の保全に取り組む「まつだい棚田バンク」の活動に参加し、選手たちも農作業や維持管理を担っています。現在は星峠の棚田の半分以上を管理し、美しい棚田景観を未来へつないでいます。

※まつだい棚田バンク2025年の活動実績

- ・ 田んぼの枚数 合計 180枚
- ・ 棚田の保全面積 115,457㎡



▲ 実りの季節を迎えた星峠の棚田（撮影日：9月2日）

郷土料理「雪見御膳」の継承

雪見御膳は、地域で古くから冠婚葬祭の際に振る舞われてきた郷土料理です。NPO法人越後妻有里山協働機構が復活させ、FC越後妻有の選手も地域のお母さんたちとともに準備や運営に携わっています。集落ごとに異なる料理や味付けも魅力で、選手たちは地域文化や人とのつながりを学びながら、その魅力を来訪者へ発信しています。



▲ 越後妻有の食文化を伝える「雪見御膳」の一例
Photo Nakamura Osamu

2027シーズン選手募集中！

FC越後妻有では、2027シーズンの選手を募集しています。「社会人になっても選手としてプレーしたい！」「サッカーも、将来も大事にしたい」。そんな想いを、サッカーと仕事、農業や地域活動を両立できる越後妻有で叶えてみませんか？

ご興味のある方は、FC越後妻有のホームページ、Instagramをご覧ください！

FC越後妻有
ホームページ ▶



FC越後妻有
Instagram ▶



【お問い合わせ先】NPO法人越後里山協働機構 FC越後妻有
E-mail fc-echigotsumari@tsumari-artfield.com

FC越後妻有の取材を終えて

「我々は地域の方の生活の中に入っていくから応援してくれる」という言葉が印象に残りました。自然と相手のために何かしたいと思える家族のような関係性であり、互いが生活にうるおいを与えてくれる存在になれる農業の力はとても素晴らしく、温かいと改めて感じました。この取組を続け、サッカーを通じて地域との絆をさらに深めていってほしいと思います。

ケージ飼い から 放し飼いへ - 主役は鶏 -

社名（株）オークリッチの成立

富樫さんの苗字を「富（リッチ）」と「樫（オーク）」に分けて組み合わせた社名です。

現在の経営状況

鶏舎は日本海沿いに立地し、汐風が吹き抜ける場所にあります。放し飼いは、経営面からみれば効率が悪く大規模化はできませんが、長く安心して食べられ自分が納得できる卵を作るためには「放し飼いしかない」と思って始めました。現在は、5棟の鶏舎のうち、4棟にボリスブラウン約2,000羽、1棟に黄斑プリマスロック約500羽を飼養しています。



ボリスブラウン



黄斑プリマスロック

（株）オークリッチの実践

近隣の農家に鶏糞を必要なだけ持って行ってもらい、そのお返しとして食べきれなくなった野菜をいただいたり、敷料として製材工場等から出た挽き屑を使ったりしています。鶏は舎外に出られるので、野菜だけでなく野草や虫、土を食べることもあります。山野草が少ない冬は、自社のビニールハウスで育てた野菜の葉などを与えています。バランスの良いものを食べて腸内フローラを整えることが大事であり、そ

村上市中浜で放し飼い養鶏に取り組んでいる（株）オークリッチ代表の富樫直樹（二代目）さんにお話を伺ってきました。養鶏を始めた当初は、ケージ飼いでしたが社会情勢の変化、卵価の低迷、過疎化、卵アレルギー、生活環境への配慮などに対応するため、平成に入り順次放し飼いに切り替え、「鶏たちの力を引き出す」この考えのもと結果的にアニマルウェルフェア（※1）に配慮した飼養形態になったそうです。そして、3年前に直売所とカフェレストランを併設しました。



代表 富樫直樹さん

の点は人間と同じです。暑さ対策は、断熱材の入った屋根と海風が鶏舎内を抜けることで結構涼しくなっています。採卵率を保つための強制換羽（※2）も行いません。なにより一番は、鶏にストレスをかけないことです。穀物飼料は遺伝子組換えの混入を厳格に排除したものを指定し、近隣事業者から入手した酒粕、えごま搾りかす、小麦ふすまに加え牡蠣殻なども混ぜ合わせたオリジナル飼料を与えています。これにより、卵の生臭さがなく、調理してもふっくらと仕上がる卵料理とな



与えた野草もあつという間にたいらげます

ります。
海が近いので野草や野菜も海のミネラルの恩恵を受けています。卵を食したシェフの中には「少し、塩味を感じますね」と言われることがあるそうです。鶏はオールインオールアウト方式（※3）で飼養し、その際、鶏舎内を熱水清掃し病気など蔓延するリスク回避に繋げています。また、管理獣医師さんによる定期巡回や新潟県下越家畜保健衛生所と連携し細菌検査や抗体検査を行うなど衛生管理も徹底しています。その結果はホームページで公開し、信頼できる美味しい卵を選んでもらえるよう努力しています。
こういった管理や鶏にあった環境を作ることによって鶏舎などの臭いがほとんどないので、訪れた人はみんな驚かれます。新潟県のクリーンエッグ生産農場の認定もいただいています。

あくまで「**主役は鶏**」、人間はそれを手助けすることに徹しています。将来的には、後継者を確保し、加工品を増やしたいです。また、地元の資源循環への寄与や学校での食育、フードバンクなどに協力しながら地域と共生した持続可能な経営を進めていきたいと思っています。



鶏舎の近くにある
卵の自動販売機

※1 アニマルウェルフェアとは？

家畜を快適な環境下で飼育することにより、家畜のストレスや疾病を減らす取り組み

※2 強制換羽とは？

採卵鶏に対して2週間程度、絶食などの給餌制限を行い、意図的に栄養不足の状態にすることで、新しい羽に強制的に生え変わらせる手法

※3 オールインオールアウト方式とは？

新たな鶏群を一度に導入（イン）して一定期間飼養し、一度に出荷（アウト）する方式

直営店のカフェレストラン「海辺のテーブルエッグ」

「海辺のテーブルエッグ」は、目の前に広がる美しい海を眺めながら、こだわりの卵料理や極上スイーツを楽しめるスポットです。甘みとコクが弾ける卵でいろいろなオリジナルメニューを提供しています。

「新潟ガストロノミーアワード2026（カジュアル部門）」、「2025年度 はばたく中小企業・小規模事業者300社（成長戦略・生産性向上部門）」（中小企業庁）をダブル受賞しています。

【🍳 高山正太郎料理長（副店長）からのメッセージ】

味が濃厚で美味しい放し飼い鶏の卵をたくさんの方々に召し上がっていただきたいので、卵を主役に、主張の強いソースなどにはなるべく使わず、卵の味を引き立てるような料理を提供しています。

初めて来店される方には、看板メニューの卵かけご飯やオムライスを。また、再来店される方には、四季折々の期間限定メニューも楽しんでもいただければと思っています。



海辺のテーブルエッグ



店内販売の卵
と加工品など



店人気No.1
オムライス



店人気No.2
カルボナーラ

新潟県拠点みどり戦略取組グループでは、地域で有機農業に取り組む生産者の皆さまを取材し、日々の工夫やこだわり、農業にかける思いなどを連載形式でご紹介していきます。

今月は、長岡市の鈴木農園の取組をご紹介します。

次ページへ



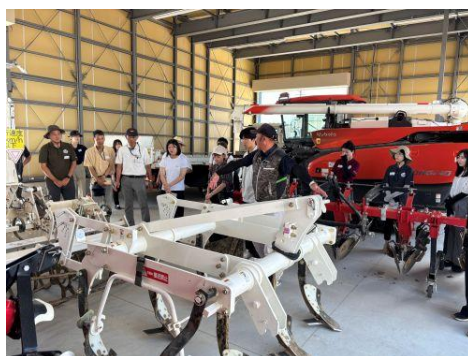
みどり情報 北陸ブロック「みどり戦略学生チャレンジ交流会」を開催



8月24日、農研機構中日本農業研究センター上越研究拠点で「第3回みどり戦略学生チャレンジ交流会」が開催されました。交流会には、県内の日本自然環境専門学校、加茂農林高等学校(オンライン参加)をはじめ北陸地区の5校が参加しました。各校から、バイオマス資源の活用や環境負荷低減など、環境に配慮した取組成果が発表され、活発な意見交換が行われました。また、試験ほ場やスマート農業機械の見学、研究員による講演も実施されました。参加した学生からは「GPSによる自動制御など、スマート農業技術を実際に見ることができ勉強になった」との声が聞かれ、未来の農業について学びを深める機会となりました。



▲ 試験ほ場見学



▲ スマート農業機械見学



▲ オンライン参加者の様子

みどり戦略学生チャレンジとは？

農林水産省では、**2050年**に向けて、環境にやさしく、かつ生産性の高い、持続可能な食料・農林水産業の実現をめざし、2021年に「**みどりの食料システム戦略**」を策定しました。

2050年の日本を担う学生の皆さんは、まさにみどり戦略の主役です。

将来を担う若い世代の環境に配慮した取組を応援するため、大学や高校等の個人・グループが「みどりの食料システム戦略」に関わる活動を実践する機会として、「みどり戦略学生チャレンジ」を実施し、学生による主体的な取組を促し、将来に向けた持続可能な食料システムの構築を目指しています。

また、その一環として、有機農業、未利用資源の活用、食品ロス対策などに関する取組をポスターにまとめ、審査・表彰する大会や交流会も行われています。

学生の皆さんも、環境にやさしい取組にチャレンジしてみませんか。

北陸農政局ホームページ「みどり戦略学生チャレンジ」

https://www.maff.go.jp/hokuriku/kikaku/midori_syokuryou/gakuseichallenge.html



トロトロ田んぼで雑草を抑える有機米づくり

鈴木農園（長岡市）



▲ 鈴木 健司さん



▲ ハザ掛けに使用するハザ木

「鈴木農園」のご紹介

鈴木農園は家族経営の稲作農家で、栽培するすべてのお米と一部畑で「有機JAS認証」を取得しています。収穫したお米は「ハザ掛け」し（コシヒカリは一部、もち米は全部）、餅の加工を行い、お米や餅を直売所やインターネットで販売しています。こだわりのお米は、ほとんどのお客様が玄米で購入しています。

- ・代表者：鈴木 健司
- ・作付け品種：コシヒカリ
朝紫（もち米）、緑万葉（もち米）
- ・作業従事者：本人、奥様、（時々）娘さん
- ・経営面積等：約113a
- ・ホームページ：

<https://gensenmai.com/farmer/suzukinouen>



なぜ有機JAS？

以前は全て委託でしたが、平成5年の冷害を受け、翌年から自分で食べる分は自分で作ることにし、慣行栽培を経て、環境と付加価値を考え、有機栽培に取り組みました。



▲ 有機栽培のほ場（水が濁って「トロトロ」）

こだわり・工夫

- ・キーワードは「トロトロ」です。土壌を、柔らかく、ふかふかで「トロトロ」の状態にすることで、水面が濁りやすく、遮光性が高い時間が長く続きます。これにより雑草の発生抑制は格段に違ってきます。除草機を使うにしても、この「トロトロ」で、作業効率や労力が全然違ってくるのです。
- ・「トロトロ」ほ場を作るためには、稲刈り後の稲わらのすき込み作業を早く終え、春までに稲わらの分解を進めることが重要なポイントとなります。

今後の展望等

有機栽培仲間には、除草作業を行わない取組をしている方もいますが、作業軽減を図るためにも「トロトロ」層の作り方を、どう上手く伝えていくか情報共有していくかが課題だと思っています。

～これから有機農業を目指す生産者へ～

毎年同じことをやっても結果は同じにはなりません。草が生えなくなるような土壌作りを目指してほしいです。



▲ 商品（朝紫の玄米）

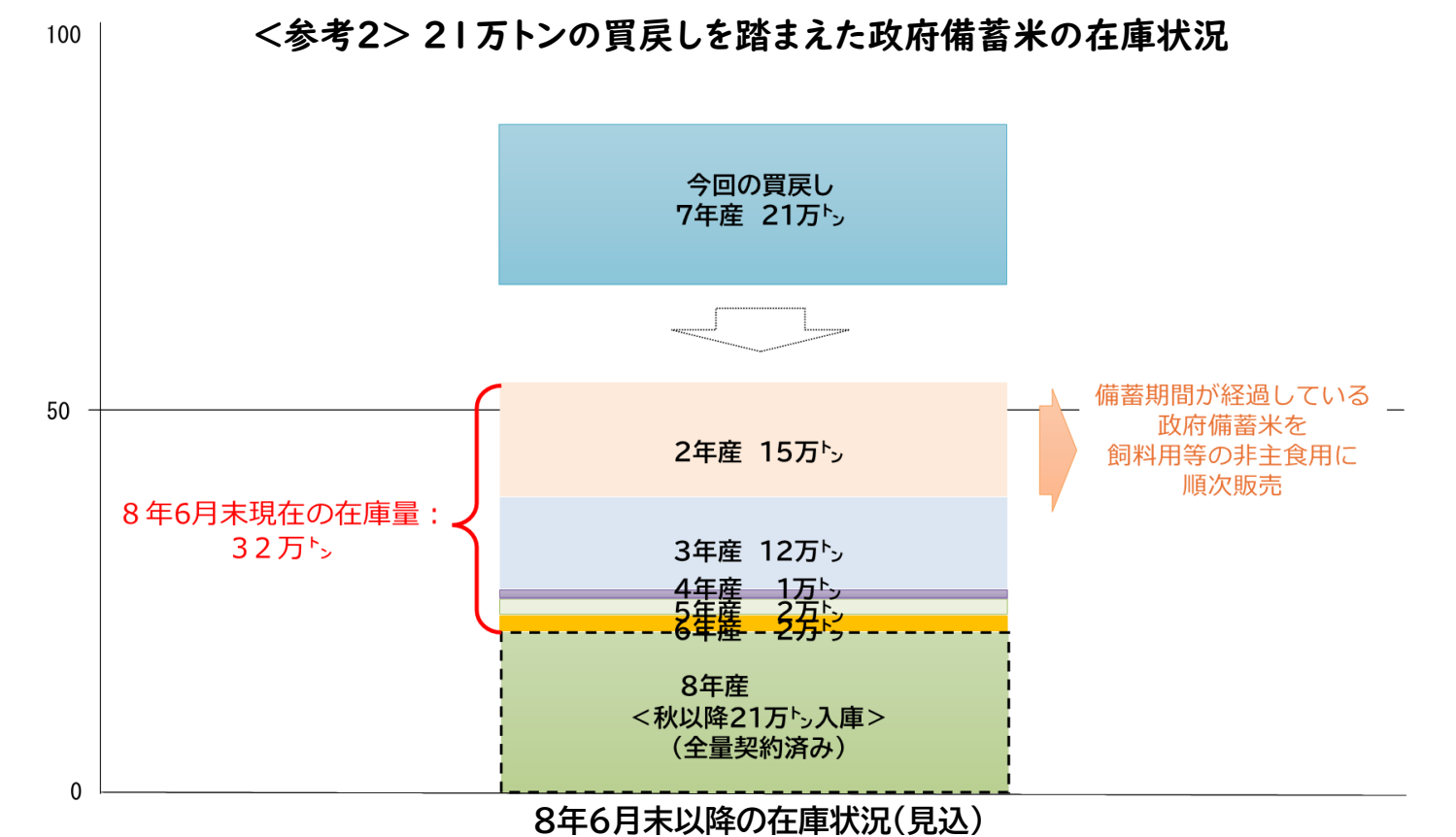
（令和8年7月取材）

農林水産省は9月2日に食料・農業・農村政策審議会食糧部会を開催しました。そこで、令和8年産水稻の8月15日現在における10a当たり収量の平均比見込み及び政府備蓄米21万トンの買戻しを踏まえ、令和8/9年の主食用米等の需給見通しが変更されました。

令和8/9年の主食用米等の需給見通し(玄米ベース)				今回の政府備蓄米の 買戻し(21万玄米トン)を 踏まえた需給見通し	
【令和8/9年の主食用米等の需給見通し】				万玄米トン	
令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量	H	243	243	【参考】 米穀周年供給・需要拡大 支援事業の令和8年度の 状況 ・長期計画的な販売支援 (32万トン) ・民間備蓄実証事業 (6万トン) 計 38万トン
	令和8年産主食用米等生産量	I	最小値 中央値 最大値 735~745~754	最小値 中央値 最大値 735~745~754	
	令和8/9年主食用米等供給量 計	J=H+I	978~988~997	978~988~997	
	令和8/9年主食用米等需要量	K	693~711	693~711	
	政府備蓄米の買戻し	L	—	21	
	令和9年6月末民間在庫量	M= J-K-L	267~285~304	246~264~283	

<参考1> 令和8年産水稻の8月15日現在における10a当たりの収量の平均比見込み				
8年産水稻の10a当たり収量の平均比見込み			都道府県数	
上回る	(対平均比 106%以上)		0	
やや上回る	(対平均比 105%~102%)		24	
平均並み	(対平均比 101%~ 99%)		19	
やや下回る	(対平均比 98%~ 95%)		3	
下回る	(対平均比 94%以下)		0	

※新潟県は「やや上回る」の24都道府県に該当



※買戻し条件付き売渡し31万トン(契約数量ベース)、随意契約による売渡し28万トン(申込確定数量ベース) 計59万トン

2026年10月、農林水産省共通申請サービス【eMAFF申請】が大幅にリニューアルします！
本リニューアルにより、パソコン・スマートフォン等から24時間365日の申請が可能となる
ほか、入力不備の自動エラーチェックや過去申請内容の自動転記等により、申請にかかる手
間やミスの軽減が図られます。

eMAFF 申請

eMAFF申請2.0で申請できる手続

約400件の農林水産業・食品産業に関する手続がオンラインで完結します。

eMAFF申請2.0のご利用開始時期は、制度によって異なります。

制度一覧はこちら https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/emmaff_shinsei_tetsuzuki.html



主な手続

農地	農地の売買や貸借、転用(届出)に関する申請手続など
農業	農業経営基盤強化準備金制度、地域農業経営基盤強化促進計画(地域計画)、 認定農業者制度など
事業	中山間地域等直接支払、多面的機能支払、鶏卵生産者経営安定対策事業など
食品・流通	食品リサイクル法の定期報告、米穀等取扱事業者届出・報告、植物検疫など
林業	「緑の雇用」事業研修修了者名簿大臣登録など
水産業	まぐろ類の輸入にかかる報告徴収、水産流通適正化法関係業務など

ご利用方法

ご利用にあたっては、GビズIDの取得が必要です。

※eMAFF申請2.0トップページは、2026年10月よりアクセス可能となります。

STEP 1	GビズIDの取得
STEP 2	eMAFF申請2.0へ ログイン
STEP 3	申請を開始



eMAFF申請2.0
トップページ



(2026年10月
より有効)

その他

「eMAFF申請2.0」についての詳細、よくあるご質問については、
農林水産省ホームページをご覧ください。

農林水産省eMAFF申請ページ <https://www.maff.go.jp/j/kanbo/dx/emmaff.html>



令和9年度農林水産予算概算要求の概要について

農林水産省は、令和9年度農林水産予算の概算要求を公表しました。

「強く豊かな日本」投資枠(4,272億円)も活用し、食料安全保障の強化等に向け、農林水産業の持続可能な成長を実現するため、総額3兆1,377億円を要求しています。

また、農林水産省では、令和9年度農林水産予算概算要求に関する個別事業ごとの説明動画を作成し、YouTubeのMAFFチャンネルで一般公開しています。動画に対応した参考資料も掲載されていますので、ぜひご活用ください。

令和9年度農林水産予算概算要求の概要

詳細については、以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r9yokyu.html>



令和9年度農林水産予算概算要求説明動画

令和9年度農林水産予算概算要求に関する説明動画（YouTube）に加え、各動画に対応した参考資料を掲載しております。

動画及び参考資料は以下のURLまたは二次元バーコードからご覧ください。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/budget/movie_r9yokyu.html



編集後記

今月の表紙写真は、実りの季節を迎えた十日町市の「星峠の棚田」です。収穫期を前に、日に日に黄金色に近づく棚田は、地域の皆さんをはじめ、多くの人々の努力によって守り継がれてきた美しい景観です。今月号では、こうした地域の営みに寄り添いながら活動するFC越後妻有を紹介しています。棚田や農業、地域文化を未来へつなぐ取組に思いを巡らせながら、ご覧いただければ幸いです。



お問い合わせ



北陸農政局新潟県拠点では、「現場と農政を結ぶ」業務を通じて、地域の皆様にタイムリーに農政に関する情報をお伝えするとともに、農業現場の抱える課題や農政に対する意見をきめ細かに汲み上げ、各種施策につなげていくこととしています。

地域の農業者（地域の担い手や若手農業者、女性農業者など）の方の集まり等で、「**農業施策の〇〇について聞きたい。**」といったご要望がございましたら、直接伺ってご説明いたします。ご遠慮なく、お気軽に下記へご連絡ください。

北陸農政局新潟県拠点 地方参事官室

〒951-8035 新潟市中央区船場町2-3435-1

TEL 025-228-5216

ホームページ <https://www.maff.go.jp/hokuriku/nousei/niigata.html>

新潟県拠点HP
はこちら▼

